

## シンポジウム「終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究」

### Menschenwürde und Selbstbestimmung in der medizinischen Versorgung am Lebensende

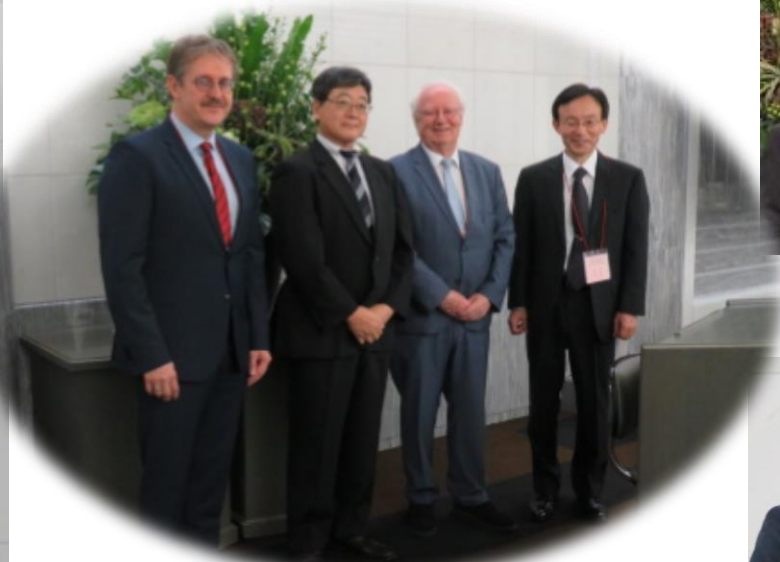
が終了しました！ 10月5日・6日合わせておよそ280名の方にご参加いただきました。  
ありがとうございます！ シンポジウムの模様をお伝えします。

10月5日（土）（10:30～17:20）



#### 開会式

日本比較法研究所・伊藤壽英所長から開会のあいさつ  
只木誠教授(中央大学)から企画の趣旨についての説明、  
DJJV(Deutsch-Japanische Juristenvereinigung e.V.)ヤン・グロテーア会長の祝辞に続き  
ドイツ側代表のグンナー・デュトゲ教授(ゲッティンゲン大学)からあいさつがありました。



### セッション1: 終末期医療における人間の尊厳

報告: 高橋 直哉(中央大学・教授)、ルトガー・ホネフェルダー(ボン大学・名誉教授)

コメンテーター: 古田 裕清(中央大学・教授)

司会: エリック・ヒルゲンドルフ(ヴェルツブルク大学・教授)



### セッション2: 治療中止とその正当化要件

報告: 井田 良(中央大学・教授)、エリック・ヒルゲンドルフ(ヴェルツブルク大学・教授)

コメンテーター: 天田 悠(香川大学・准教授)

司会: ヘニング・ロゼナウ(ハレ大学・教授)



### セッション3: 積極的臨死介助

報告: 佐伯 仁志(東京大学・教授)、ヘニング・ロゼナウ(ハレ大学・教授)

コメンテーター: 畝本 恭子(日本医科大学多摩永山病院救命救急センター・センター長)

司会: ブリギッテ・ターク(チューリヒ大学・教授)



10月6日（日）（10:00～17:25）

**セッション4: 患者の指示書(リビングウィル)と自己決定権**

報告: 甲斐 克則(早稲田大学・教授)、カーステン・ゲーデ(ブツェリウス・ロースクール・教授)

コメンテーター: メラニー・シュトイヤー(ゲッティンゲン大学・助手)

司会: 石山 文彦(中央大学・教授)



**セッション5: 終末期医療における諸問題**

報告: 高山 佳奈子(京都大学・教授)、グンナー・デュトゲ(ゲッティンゲン大学・教授)

コメンテーター: 富川 雅満(九州大学・准教授)

司会: 鈴木 彰雄(中央大学・教授)



質疑応答：

質疑応答では、別のセッションの報告者からも質問が相次ぎ、活発なディスカッションが繰り広げられました。



## セッション6：臨死介助協会とわが国の対応

報告：只木 誠（中央大学・教授）、ブリギッテ・ターク（チューリヒ大学・教授）

コメンテーター：リアーネ・ヴェルナー（コンスタンツ大学・教授）

司会：曲田 統（中央大学・教授）



総括：松田 純（静岡大学・特任教授）

総括：横田 裕行（日本医科大学・教授）





閉会式では、デュトゲ教授からご挨拶がありました。



シンポジウム終了後の打ち上げ  
では、甲斐先生の誕生日をお祝い  
して花が贈られました！



シンポジウムの報告は当研究所のニュースレターに、成果(シンポジウムの記録と、報告・コメント論文)は2020年、日本比較法研究所研究叢書として刊行を予定しております。

以上